

涇江小学校 外国語・外国語活動研究通信

第8号
令和3年12月

今年度第8回目となる外国語活動・外国語の研究授業を 上原 陽輝 教諭が行いました。協議会では、絵本を主体とした言語活動や、発達段階に合わせた読み書きの指導についてご指導いただきました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：4組ABグループ（特別支援学級）担任 上原 陽輝 教諭 TA 石光 萌乃 T2 岩佐 尚武

※1年2名、2年5名、3年1名、4年3名、6年1名

単元名：英語の絵本を作ろう

指導講評：京都光華女子大学こども教育学部 こども教育学科教授 田縁 眞弓 先生より



① 絵本の読み聞かせの実施

毎時間、外国語活動の後に、英語の絵本『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』や『Pet the Cat I Love My White Shoes.』の読み聞かせを行い、児童の外国語に対する興味や関心を高めた。そのため、楽しみながら取り組むことができた。また、YouTube等を活用して、ネイティブスピーカーの発音等にも触れさせるようにした。

② 既習の表現を繰り返し使う

初めて扱う語彙に関しては、ゲームを通して、楽しみながら慣れ親しませた。また、単元（果物や動物）に進む際にも、既習の表現や語彙（数字）を積極的に繰り返し用いるように学習内容を構成することで、無理なく親しむことができた。

③ 振り返りカードの工夫

児童が無理なく楽しみながら達成できる目標（めあて）を設定し、学習の最後に振り返りカードを記入させた。その活動を通して、自分の活動内容を振り返り、達成感をもたせることが出来るようにした。また、ICTの積極的活用の観点から、振り返りカードをGoogleフォームで作成し、児童には児童用タブレットを通して入力させるようにした。そのことによって、授業に関わる教員間で振り返りカードの内容の共有も行えるようになった。したがって、振り返りカードの分析等が行いやすくなり、教師の校務の円滑化や評価のしやすさにつながった。

〈授業者自評〉

・今回は1・2年生を主として指導計画を立てた、絵本作成がメインになった。3～6年生のことを考えて少し発表を入れた。しかし、もう少し時間配分を工夫できれば発表時間を設けられたのではないかと考える。

〈研究協議〉

○…良い点 ●…改善点 □…質問

絵本

- 楽しそうに活動ができていたので、絵本を作る活動が動機づけにつながって良かった。
- 絵本というストーリー性があるというイメージだったが、題材は「絵本づくり」でよかったのか？
→絵本作成の良さは、自分の思いをのせられるところにある。キャラクターの好きなものを絵本にするのではなく、児童自身の好きなものを載せた方が良かった。

発表

- キャラクターを選んで好きなものも言えていて楽しく取り組んでいた。
- 完成した絵本をみんなが発表できると良かった。
→絵本を作る、発表をする、どちらも入れるのは厳しいと本来思っていたが、今日のめあては「絵本の作成」だったので…、少し難しさを感じた。
- 発話量が少なく感じた。できあがった絵本の発表をペアでのやり取りは難しかったか？
→特別学級はルーティンが大切なので、普段の決まった活動をするとしても発表や伝え合う活動を確保できなかった。しかし、工夫することはできたのではと考える。
(改善案) 発話量を増やすために…
 - ・果物を複数の果物をもって良いというルールを、一つずつではないといけないとすれば、発言する機会を増やせたのでは？
 - ・児童に果物カードを渡す際に、一緒に数を数えると良かったのでは？

タブレットを用いた振り返り

- 特別支援学級の子どもたちが、無理なく1年生からタブレットを活用でき、ローマ字打ちができてるのがとても良い。
- 何のための振り返りなのか、振り返りの目的がわからなかった。今までの振り返りを見ることができると良かった。
- 振り返りをタブレットで行うことの、子どもにとっての利点とは？教師にとって集計はしやすいが、子どもの感想は「楽しかった」「またやりたい」等、抽象的になってしまっていた。
→教師は集めやすい、教師間で共有しやすい。確かに子どもにとってはまだやりにくさがあるが、他教科と同じように活用した。

【指導・講評：京都光華女子大学こども教育学部 こども教育学科教授 田縁 眞弓 先生】

- ・英語を使って絵本を作ることが目的であれば、果物や動物カードを「これ。」と指差ししてもらうことをよしとすることは言語活動だったのか？という疑問がある。それをするなら、やり取りの言語材料をしっかりと確認し、サンプルを見せた上で取り組ませるべきである。

動機付け

- ・活動の楽しさから、内的な動機づけを高める。
(自分の思いを英語で伝えることが動機づけになる。)

絵本

- ・今回の絵本作成に、自分の思いがあったのか？絵本作成の良さは、自分の思いをのせられるところにある。キャラクターの好きなものを絵本にするのではなく、児童自身の好きなものを載せた方が良かった。すると、自然に果物や動物、色や大きさなど、より主体的な言語活動を行うことができた。
- ・絵本の内容をyoutube等でネイティブな音声を耳に入れていたのであれば、それを実際に読む活動がとれると良い。

タブレットを使った振り返り

- ・お店屋さんが始まるとカード集めやシール貼りがメインになり、言語活動としては難しくなる。更に、評価に使用するなら振り返りをきちんと記述させないと見えてこない。今後タブレットの活用が主流になるが、記述は工夫が必要になる。

※内容項目（4段階の振り返りについて）

- ・自信をもってできる…何をもって「自信をもっている」のか？

大体できる…どれくらいが「大体」なのか？

なぜ今これをするのか・何をすべきなのかの共通理解と児童を励ますための形成的評価でなくてはならない。めあてと振り返りの一致を目指すのであれば、それを明確にして子供と共有することが重要である。

今後他学年他クラスで課題となること

〈発達段階に合わせた読み書きの指導〉

- ・高学年での読み書き（文字）指導の導入にあたり、児童の情意面にマイナスの影響を与える文字指導は極力避けたい。例えば、中学校で実施されているような演繹的・明示的な読み書き授業。
- 中学生ほど認知的・論理的思考が発達していない児童にとっては負荷が高く、英語に対する苦手意識をもってしまう児童が増えることが増えることが大きく懸念される。文法・約読中心の授業経験を無意識のうちに反映してしまう可能性がある。